



対象 主に大型犬	手術時間 90～150 分	入院 3～7 泊	麻酔 全身麻酔
-------------	------------------	-------------	------------

△胃拡張胃捻転症候群（GDV）は数時間で命に関わる緊急疾患です。
「えずくのにも何も出ない＋お腹が膨らむ」はすぐに受診してください。

■ どんな手術？

GDV（胃拡張胃捻転症候群）の根治手術です。ガスで膨らんだ胃を減圧し、ねじれを元に戻したうえで、再発を防ぐために胃を腹壁に固定します。胃が壊死している部分は切除します。緊急手術であり、手術前のショック管理と迅速な手術が生存率を左右します。

■ この手術が必要なとき

- ・ GDV（胃の拡張＋捻転）
- ・ えずき・お腹が張る・ショック症状がある大型犬

■ 手術の流れ

- ① 静脈路を確保し、輸液とショック管理を行います（手術室の準備と並行して進めます）
- ② 胃の中のガスを経皮的に減圧します（一時的）
- ③ 全身麻酔をかけ、お腹を切開します
- ④ ねじれた胃を元の正常な位置に戻します
- ⑤ 胃壁の壊死を評価し、壊死があれば部分的に切除します
- ⑥ 再発予防のため、胃を右の腹壁に縫合して固定します（胃固定術）
- ⑦ 閉腹し、集中管理に移ります

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の目安

術後 3～7 泊は集中管理（心電図・血圧・輸液）を行います。絶食後、少量の水から段階的に食事を再開します。

■ 術後のケア

- ・ 退院後も安静にし、少量頻回の食事を続けます
- ・ 胃固定術により再発リスクは大きく低下します
- ・ 早食い・食後すぐの運動を避けるなど、生活面の工夫を続けます

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・術中・術後の致死的な不整脈（虚血再灌流による傷害）
- ・胃壊死が広い範囲におよぶ場合は回復が難しくなる
- ・術後の腹膜炎（縫合不全）
- ・播種性血管内凝固（DIC）

■ よくある質問

Q. 助かりますか？

A. 早期の受診・早期の手術で生存率は大きく改善します。発症から 6 時間以内の手術が理想です。できる限り力を尽くします。

Q. 手術後に再発しますか？

A. 胃固定術を行うことで再発リスクは大きく低下します。

Q. 予防できますか？

A. 発症前に行う「予防的胃固定術」でリスクを 96%以上下げられます。リスクの高い犬種には特にお勧めします。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください